

デバイスと地域力を活用した通学路の安全確保

(光市立光井中学校、光井小学校)

<ねらい>

光井学園（光市立光井小・中学校）において、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した学校・家庭・地域が連携した通学路の交通安全等を確保するための体制づくりを進める。学校安全に係る「チーム学校」の構築を図り、「効果的な連携」と「持続可能な取組」を重視して取り組んでいく。

取 組 内 容

- 1 実施期間：令和4年6月～令和5年2月
- 2 実施校：光市立光井中学校（校長：荒瀬 浩一）＜拠点校＞
光市立光井小学校（校長：温品 賢二）
- 3 推進組織：教職員、保護者、学校運営協議会、少年安全サポーター、光市教育委員会、
県教育庁学校安全・体育課、学校安全アドバイザー

4 取組内容

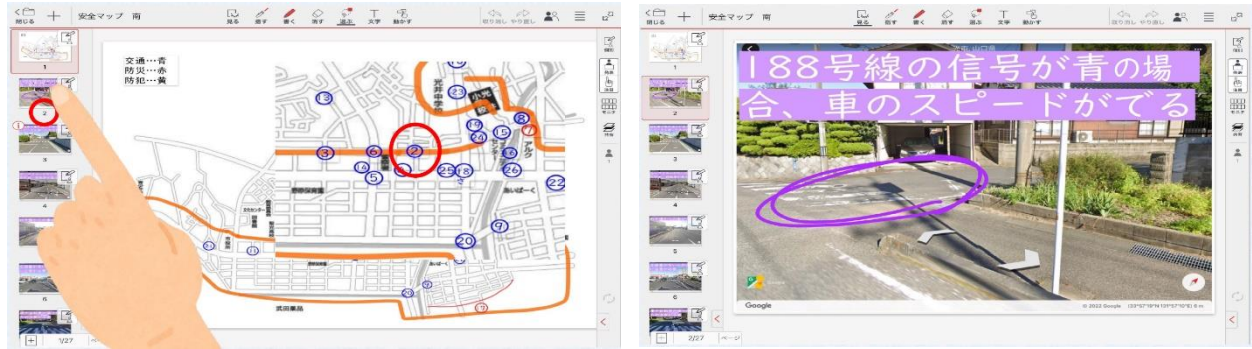
(1) 光井小・中学校学校運営協議会 令和4年9月29日（木）

「通学路の安全について」を熟議のテーマとして、小・中学校の学校運営協議会委員に、それぞれの学校の児童・生徒及び教職員等が加わり、総勢100名が8グループに分かれ、紙媒体の校区内地図及びGoogle Earthを活用し、紙面上の情報と実際の現地の様子を見ながら、交通安全・防犯・防災の観点から危険箇所を抽出した。



(2) デバイス（学習者用タブレット端末）を活用した安全マップの作成

授業支援アプリケーション「MetaMoJi Classroom」の協働学習機能を利用し、デバイス上で共有しやすい安全マップを作成した。リアルタイムで更新され、様々なデバイスで共有できる。



紙媒体での安全マップ作成だと、意識の高まりは年に数回だが、気軽に共有できるデバイスを活用したデジタルマップにすることで、意識を高く保つことができる。

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| | | ● | | | | | | | | | |

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 自分たちの安全を主体的に考える | | | | | | | | | | | |

(3) 小中合同集団登校・引き渡し訓練 令和4年11月15日（火）

班長（中学生）には前日指導において、危険箇所の確認や諸注意を行った。当日はいつも以上に安全を意識し、中学生が小学生を学校まで送り届け、無事登校することができた。また、事後には、振り返りを行うとともに、危険箇所を再度検討し、デバイスを活用した安全マップへ反映されるようにした。



(4) 地域防災部常任部会

光井地域の地域防災常任部会に出席し、協議する項目の1つに「光井小・中学校合同集団登校や引き渡し訓練」をあげ、さらに充実したものとなるように、地域の防災士等から意見をいただいた。



(5) 光井小中学校学校運営協議会 令和5年2月6日(月)

9月に熟議において取り上げた光井地域の安全についてのその後の取組について、光井中学校の担当教員から参加者全員へ報告を行った。また、部会別協議においても、安全マップについて、さらに地域の安全へとつなげていくことができるアイデアを出し合った。



(6) 令和4年度学校安全総合支援事業「全国成果発表会」 令和5年2月9日(木)

光井地域の発表を、全校生徒・教職員で視聴した。

これまで取り組んできたことへの価値付けとなり、終了後は自然に拍手が起こった。



5 成果と今後に向けて

○ 成果

- ・ コミュニティ・スクールの取組を生かすことにより、児童、生徒や教職員だけでなく、家庭や地域の方々も参画して地域の安全性について協議し、様々な立場から多面的・多角的に地域の安全性について考えることができた。また、その協議した結果（危険箇所の把握）をICT機器を活用し、広く共有することができた。
- ・ デバイス（学習者用タブレット端末）及び学習支援アプリケーション「MetaMoJi Classroom」を活用することで、児童及び生徒の参画を促進することができた。その成果として、子どもたち自身が主体となって地域の安全や自主防災について考えることのできる機会となった。
- ・ 地域の方々にとっても、子どもたちの安全を守るという意識を高める活動となった。

○ 課題

- ・ ICT機器による即時性のある共有機能により、地域における誰もが参画して効果的な取組としたいが、セキュリティ面で難しい面がある。
- ・ 継続性を意識した取組となるように展開してきた経緯があるので、今後も継続していくことが大切である。